



お子さんの誤飲に注意しましょう

お子さん、とりわけ赤ちゃんは、身の回りにある食品以外のものを、誤って口に入れてしまうことがあります。事故の原因となったものとしては、**タバコ**が最も多く、次いで**医薬品**となっています。

タバコは最も危険です

タバコを飲み込んでしまうと、**ニコチン中毒**を起こすことがあります。特に、灰皿に水が入っていると、ニコチンが多く溶け出ているので大変危険です。

タバコを食べた場合は、**できるだけ取り出したり吐かせたりして**、すみやかに病院に向かいましょう。

＜子どもの誤飲事故の原因で多かったもの＞	
1位	タバコ
2位	医薬品
3位	ビー玉・おはじき等の玩具
4位	洗剤など
5位	コイン

(国民生活センター資料より)

- * タバコの灰皿は、フタ付のものにするとよいでしょう。
- * ジュースの缶を灰皿代わりにする、誤飲につながるような紛らわしい使い方は止めましょう。

医薬品の場合

種類や飲み込んだ量によっては、危険です。できるだけ取り出したり吐かせたりして、誤飲した薬が残っていればそれを持って病院にかかり、何をどのくらい飲んだのかを伝えてください。病院での応急処置がしやすくなります。

＜緊急度別対応表＞	
夜間でも急いで病院へ	タバコ2／3本以上、灰皿の水、ナフタレン、ほう酸団子、トイレ用洗剤、漂白剤
診療時間内に、病院へ	タバコ2／3本未満、ボタン型電池、硬貨等小さな異物(便に出てこない場合)、元気がない、ふだんと様子が違う
家で様子を見て	台所用洗剤、洗濯用洗剤、石けん、シャンプー、リンス、化粧水
ほとんど問題ありません	クレヨン、乳液、口紅、シリカゲル、蚊取り線香・マット

(沖縄県薬剤師会：こどもの誤飲誤食110番より)

吐かせてはいけない場合

意識がない場合、けいれんしている場合

吐いたものがのどに詰まり窒息する恐れがあります。

漂白剤(強アルカリ性)、灯油・ガソリン等の石油製品、トイレ用・排水パイプ用洗剤(強酸性)

粘膜にやけどを起こすので、吐かせることで食道や気管に損傷を与えます。

マニキュア除光液

揮発性なので、胃の中からゲップとして出てきたときに、肺に入ると肺炎を起こすことがあります。何も飲ませず、吐かせずに病院へ。

(沖縄県薬剤師会：こどもの誤飲誤食110番より)

事故の予防策としては・・・

- * 口に入りそうなものは、子どもの手の届かないところ(床から1m以上)に置きましょう。
- * 冷蔵庫のシロップの薬は、ジュースと間違える場合もありますので、特に注意してください。
- * 洗剤をペットボトルに入れるなど、誤飲につながるような紛らわしい使い方は止めましょう。